



# 国際評価基準審議会 (IVSC) 年次総会報告※

※ 本稿においては、IVSC年次総会を中心に報告する。

日本公認会計士協会常務理事

いのうえ こういち

井上 浩一



## 1 概要

2017年10月2日(月)から4日(水)にメキシコシティにおいて開催された国際評価基準審議会(International Valuation Standards Council: IVSC)年次総会について報告する。

## 2 出席者

日本からは、筆者のほか、Trusteeとして山田辰己氏、Business Valuation Standards Board Memberとして岩

田宜子氏、日本不動産鑑定士協会連合会から水谷賀子氏が参加した。

## 3 議事概要

### 1 IVSCメンバーによるCEO会議(オープンミーティング): 10月2日

IVSCのBoard of Trustees議長であるSir David Tweedieが議長となり、まず、加盟メンバーの簡単な紹介がなされた。次に、国際評価基準(IVS)2017改訂後のプロジェクトに関する説明などがされ、続いて、IVSに対するニーズの高

まりについてなど、幅広いテーマで自由なディスカッションが行われた。

新しく金融商品の評価基準を策定する委員会を立ち上げるが、いまだ委員の人選中とのことである。当初の予定では2017年末ごろから活動を開始することとなっている。このセッションにおいて、筆者は、「ビジネスバリエーションと金融商品バリエーションとに分けた場合、その境界が曖昧な事業や金融商品があるので、多角的な視点から検討したうえで幅広く関係者のコンセンサスを得る必要がある」とコメントした。

## 2 ビジネスバリエーションスタンダードボードのワーキングセッション:10月2日

- パブリックミーティングの形式をとっており、Business Valuation Standards Boardのメンバーでない者からも自由に発言を受け付けていた。

## 3 IVSCスタンダードレビューボードのオープン会議:10月3日

- 各専門部会から提案されてきた評価基準を審議する会議体であり、その活動方針などについて議論された。オープン会議のため、50名を超えるオブザーバーが参加した。なお、別途行われたクローズド会議では、2018年度に検討するテーマとして、次の6つが挙げられた。

- ① 非金融負債
- ② 割引率
- ③ アーリーステージ企業の評価
- ④ 生物資産
- ⑤ 採掘産業
- ⑥ 棚卸資産

## 4 IVSCアドバイザリーフォーラムのオープン会議:10月4日

アドバイザリーフォーラムの構成員は各国のVPO (Valuation Professional Organization) であり、日本においては、日本不動産鑑定士協会連合会がこのVPOに該当する。今回の会議においては、新たに「Business Valuation Quality Mark」の創設について提案があった。ビジネスバリエーションはプロフェッショナルが担う業務として位置付け、その業務品質のレベルを確保すること、さらには、その品質をどう維持していくかということについてさまざまな議論があった。これからは、プロフェッショナルの認定方法やその後の業務品質のモニタリング方法について議論が重ねられていくことになる。

## 5 年次総会:10月4日

下記について報告・承認がなされた。

- International Valuation Standards Board及びIVSC Advisory Forumの各議長からの報告
- IVS Adoptionに関するアンケートについての中間報告  
(まだ自国で評価基準を持っていない国はAdoptionについて積極的だが、自国基準のある国ではAdoptionに一定の距離をおく傾向があった。)
- IVSCの財務報告
- IVSC会員の加入状況についての報告

## 6 次回の年次総会

2018年10月に行う予定である。

## 4 我が国及び日本公認会計士協会への影響と対応

IVSCは、1981年にプライベートセクターの非営利組織として設立された団体

で、その活動の中心は、IVSの設定組織と評価を行う専門家の組織の2つであり、その目的は下記である。

- ① 高品質の国際評価基準を開発し、その採用及び利用を促進すること
- ② IVSCのメンバーとなっている組織間の連携と協調を促進すること
- ③ その他の国際組織との連携及び協調を図ること
- ④ 評価専門職業に関する国際的な見解を示すこと

IFRSにおけるFair Valueの評価などについては、World Bankや各国証券取引所、金融当局による関心も高く、私的団体であるIVSCの認知度も高くなってきている。現在のところ、これに伍する国際組織が存在していないことから、IVSCが示す基準が今後のデファクトスタンダードとなっていく可能性がある。

今回の総会では、ビジネスバリエーションにおける品質管理に関する方向性についての提案がなされた。今後さらに進んで何らかの資格制度が提案される可能性がある(なお、米国ではSEC主導によってAICPA(American Institute of Certified Public Accountants)、ASA(American Society of Appraisers)、RICS(Royal Institution of Chartered Surveyors)の3団体が共同で策定したCEIV(Certified Entity and Intangible Valuations)資格制度が2017年から発足している。)

今後のIVSCにおける国際評価基準(特にビジネスバリエーション)の改訂・運用において、日本公認会計士協会はその発言力を高め、国際基準策定の一翼を担うことが重要である。